

# 旧 修徳尋常小、篠山市・味間小移築が縁

## 下京で6日 両校関係者が交流会

# 同じ校舎で学んだ 思い出語るううよ

京都市下京区の旧修徳尋常小の校舎 交流会が六日、市学校歴史博物館（下京が兵庫篠山市に移築され、一九六五区）で開かれる。篠山市の味間小で昨年までの三十七年間、地元で校舎として使われていた縁で、この校舎で学んだ両市の関係者が思い出を語り合う交流



80年ぶりに京都に里帰りし、展示されている修徳尋常小の校舎の鬼瓦（京都市下京区）

「修徳の鬼瓦」80年ぶり帰京機に

# 90歳のOBも参加

〇五明治三十八年（名も四一年に「味間国民学校」と改称される）に建てられた旧修徳尋常小の校舎は、二八（昭和三年、篠山市に現在ある味間小の統合に伴う新校舎として買い取られ、移築された。校

名も四一年に「味間国民学校」と改称されるた鬼瓦が味間小で見つかり、移築されていたことが分かった。この話を聞いた篠山市出身で京都市在住の映画監督・西垣吉春さん（61）

の橋渡しして里帰りが実現。今回の交流会の開催につながった。

交流会には両市の学校卒業生や修徳学区の住民ら約五十人が参加。同館で鬼瓦を見学した後、校舎の思い出について語り合う。修徳まちづくり委員会の委員長である小西宏之さん（75）は「こちらの卒業生は多くが亡くなり、九十歳の一人のみになりそうだが、これを機に自治会同士の交流を深めていきたい」と話す。

（樺山聡）